



TITLE:

保型L関数とWhittaker関数( $\mathrm{Sp}(4)$ の場合)( $\mathrm{Sp}(2; \mathbb{R})$ )と  
 $\mathrm{SU}(2,2)$ 上の保型形式)

AUTHOR(S):

古関, 春隆

---

CITATION:

古関, 春隆. 保型L関数とWhittaker関数( $\mathrm{Sp}(4)$ の場合)( $\mathrm{Sp}(2; \mathbb{R})$ )と $\mathrm{SU}(2,2)$ 上の保型形式). 数理解析研究所講究録 1995, 909: 147-153

ISSUE DATE:

1995-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/59517>

RIGHT:

## 保型 $L$ 関数と Whittaker 関数 ( $Sp(4)$ の場合)

三重大教育 古関 春隆 (H. Koseki)

M. E. Novodvorsky による  $GS_p(4)$  上の zeta integral に関する結果の概略を述べます。もとの論文は

Novodvorsky, Automorphic  $L$ -functions for the symplectic group  $GS_p4$ , in AMS Proc. Symp. Pure Math. 33, 1979  
ですが, これは関数体上の  $GS_p(4)$  を扱っています。しかし  
D. Bump の survey

Bump, The Rankin-Selberg method: a survey,  
in "Number Theory, Trace Formulas and ...", 1989

では代数体上の場合の Novodvorsky integral についての同様の結果を述べているので, ここでも代数体上の場合を考える事にして, 以下

$F$ : 代数体,  $\mathcal{O}$ :  $F$  の整数環,  $A$ :  $F$  の adèle 環  
とします。

# 1. Langlands L 関数

$G$  を  $F$  上の  $GS_{p4}$  とする:

$$G(F) = \{ g \in GL_4(F) ; {}^t g J g = \lambda(g) J, \lambda(g) \in F^\times \},$$

$$J = \begin{pmatrix} & & & 1 \\ & & 1 & \\ & -1 & & \\ -1 & & & \end{pmatrix}.$$

$G(A)$  の standard な maximal compact subgroup を  $K$  とする:

$$K = \prod_v K_v ;$$

$$v: \text{finite} \Rightarrow K_v = G(\mathcal{O}_v),$$

$$v: \text{real} \Rightarrow K_v = U(2),$$

$$v: \text{complex} \Rightarrow K_v \text{ は } Sp_4(\mathbb{C}) \text{ の compact real form.}$$

この  $K$  に関して class 1 であるような  $G(A)$  の cuspidal な保型表現  $\pi = \otimes_v \pi_v$  を任意に固定し, 以下, その  $L$  関数を問題にする。(後で,  $\pi$  が generic という仮定を加える。)

$G$  の連結  $L$  群  ${}^L G^\circ$  は  $GS_{p4}(\mathbb{C})$  になる。その maximal torus  ${}^L T^\circ$  を

$${}^L T^\circ = \left\{ \begin{pmatrix} \alpha_1 & & & \\ & \alpha_2 & & \\ & & \alpha_3 & \\ & & & \alpha_4 \end{pmatrix} ; \alpha_i \in \mathbb{C}^\times, \alpha_1 \alpha_4 = \alpha_2 \alpha_3 \right\}$$

と定め,  ${}^L G^\circ$  の  ${}^L T^\circ$  に関する Weyl 群を  $W$  とおく。  $v$  が  $F$  の有限素点のとき, Hecke 環  $\mathcal{H}(G(F_v), K_v)$  の佐武同型を通して次の 1:1 対応が得られる:

$$\{G(F_p) \text{ の class 1 表現 } \} \longleftrightarrow {}^L T^\circ \bmod W.$$

この対応によって  $\pi = \bigotimes_v \pi_v$  の成分  $\pi_v$  が  $\text{diag}(\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3, \alpha_4)$  に対応しているとする。  ${}^L G^\circ$  の有限次元表現  $\chi$  に対し

$$L_v(\Delta, \pi_v, \chi) = \det(1 - \chi(\text{diag}(\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3, \alpha_4)) q^{-s})^{-1}$$

( $q$  は  $F_v$  の剰余体の元の個数) において有限素点  $v$  に於る Euler 因子を定義する。  ${}^L G^\circ$  は 4 次の Spin 表現  $\text{spin}$  をもつが, これに対しては

$$L_v(\Delta, \pi_v, \text{spin}) = \prod_{k=1}^4 (1 - \alpha_k q^{-s})^{-1}$$

である。

$v$  が無限素点のときも  $L_v(\Delta, \pi_v, \chi)$  をしかるべく定義して, Langlands L 関数  $L(\Delta, \pi, \chi)$  を次のように定める:

$$L(\Delta, \pi, \chi) = \prod_v L_v(\Delta, \pi_v, \chi).$$

## 2. Whittaker 関数

$G$  の minimal parabolic subgroup の unipotent radical

$$N = \left\{ \begin{pmatrix} 1 & x_2 & & \\ & 1 & & \\ & & 1-x_2 & \\ & & & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & x_3 & x_4 & \\ & 1 & x_1 & x_3 \\ & & 1 & \\ & & & 1 \end{pmatrix} \right\}$$

をとって  $N$  に関する Whittaker model を考える。  $A/F$  の指標  $\psi = \prod_v \psi_v$  を, すべての有限素点で不分岐かつ non-trivial で, 無限素点でもしかるべき指標になるようにとる。

素点  $v$  における Whittaker 関数の空間  $\mathcal{W}_v$  を

$$\mathcal{W}_v = \{ f : G(F_v) \rightarrow \mathbb{C} \text{ smooth};$$

$$f(n g) = c_v(x_1, x_2) f(g) \text{ for}$$

$$n = \begin{pmatrix} 1 & x_2 & & \\ & 1 & & \\ & & 1 & -x_2 \\ & & & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & x_3 x_4 & & \\ & 1 & x_1 x_3 & \\ & & 1 & \\ & & & 1 \end{pmatrix} \in N(F_v), g \in G(F_v) \}$$

と定める。(  $v$  が無限素点ならば増大度条件を加える必要がある。 ) このとき Shalika et al の重複度 1 定理より

$$\dim_{\mathbb{C}} \text{Hom}(\pi_v, \mathcal{W}_v) \leq 1.$$

以下すべての  $v$  で上の次元 = 1 であると仮定し,  $W_v \in \mathcal{W}_v$  を  $\cdot \pi_v$  を生成し,  $\cdot \text{class 1}$  で,  $\cdot W_v(1) = 1$  となるようにとっておく。

$\pi$  を生成する  $G(A)$  上の保型形式で  $K$ -fixed なもの  $\phi$  をとり, 付随する Whittaker 関数  $W : G(A) \rightarrow \mathbb{C}$  を

$$W(g) = \int_{(A/F)^4} \phi \left( \begin{pmatrix} 1 & x_2 & & \\ & 1 & & \\ & & 1 & -x_2 \\ & & & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 & x_3 x_4 & & \\ & 1 & x_1 x_3 & \\ & & 1 & \\ & & & 1 \end{pmatrix} \right) \\ \times c(-x_1, -x_2) dx_1 dx_2 dx_3 dx_4$$

と定める。ただしこれが消えないことも仮定する。すると重複度 1 定理より

$$W(\prod_v g_v) = c \times \prod_v W_v(g_v), \quad c \neq 0.$$

### 3. $G \times GL(1)$ 上の convolution

上の  $\phi$  だけでなく Hecke 指標  $\psi = \prod_v \psi_v : A^\times/F^\times \rightarrow \mathbb{C}^\times$  も取って, global zeta integral  $Z(s; \phi, \psi)$  をつくる:

$$Z(s; \phi, \psi) = \int_{A^\times/F^\times} \int_{(A/F)^3} \phi \left( \begin{pmatrix} 1 & x_2 & x_4 \\ & 1 & -x_2 \\ & & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} y \\ y_1 \\ 1 \end{pmatrix} \right) \times \psi(-x_2) \psi(y) \|y\|^{s-\frac{1}{2}} dx dy.$$

この  $Z(s; \phi, \psi)$  は  $s$  の entire function になり, 関数等式

$$Z(s; \phi, \psi) = Z(1-s; \hat{\phi}, \hat{\psi})$$

をみたす。ただし  $\hat{\phi}$  は  $\pi$  の反値表現の " $\phi$ " で,  $\hat{\psi}(y) = \psi(y^{-1})$ 。

さらに次が成立する:

Basic Identity:  $\operatorname{Re}(s) \gg 0$  のとき, 0 でない定数倍を除いて

$$Z(s; \phi, \psi) = \prod_v \int_{F_v^\times} \int_{F_v} W_v \left( \begin{pmatrix} y \\ x \\ 1 \end{pmatrix} \right) \phi_v(y) \times \|y\|^{s-\frac{3}{2}} dx dy. //$$

これは  $A/F$  上の Fourier 展開を用いて "初等的に" 証明できる。

そこで各素点  $v$  において local zeta integral

$$\int_{F_v^\times} \int_{F_v} W_v \left( \begin{pmatrix} y \\ x \\ 1 \end{pmatrix} \right) \phi_v(y) \|y\|^{s-\frac{3}{2}} dx dy$$

を計算することが問題になる。 $v$  が有限素点のときは加藤 - Casselman-Shalika による Whittaker 関数の explicit formula を用いて計算できて, local zeta integral は

$$L_v(\Delta, \phi \times \psi, \text{spin} \times 1) = \prod_{k=1}^4 (1 - \alpha_k \psi(p) q^{-\Delta})^{-1}$$

に一致することが示される。

以上より

定理 1.  $L(\Delta, \phi \times \psi, \text{spin} \times 1) = \prod_v L_v(\Delta, \phi \times \psi, \text{spin} \times 1)$  は全  $\Delta$  平面上 entire な関数に解析接続され,  $\Delta \mapsto 1-\Delta$  に関し関数等式をみたす。 //

ここで関数等式の具体形は, 無限素点  $v$  における因子が計算できれば, 決定できる。

#### 4. $G \times GL(2)$ 上の convolution

$F$  上の代数群

$$H = \{ (h_1, h_2) \in GL(2) \times GL(2); \det h_1 = \det h_2 \}$$

の  $G$  の埋め込み  $J$  を次のように取る:

$$J\left(\begin{pmatrix} a_1 & b_1 \\ c_1 & d_1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} a_2 & b_2 \\ c_2 & d_2 \end{pmatrix}\right) = \begin{pmatrix} a_2 & b_2 \\ a_1 & b_1 \\ c_1 & d_1 \\ c_2 & d_2 \end{pmatrix}.$$

$G(A)$  上の  $\phi$  とともに  $GL(2, A)$  上の保型形式  $\psi$  で  $K'$ -fixed vector であるようなものとする。ここで  $K'$  は  $GL(2, A)$  の standard maximal compact subgroup とする。  $B \subset GL(2)$  を上三角群として,  $GL(2, A)$  上の Eisenstein 級数を次のように定義する:

$$E(g, \lambda) = \xi_F(2\lambda) \sum_{g \in B(F) \backslash GL(2, F)} I_\lambda(gg),$$

$\xi_F(\lambda)$  は  $F$  の Dedekind zeta に  $\Gamma$  因子を補ったもの,

$$I_\lambda\left(\begin{pmatrix} y_1 & x \\ & y_2 \end{pmatrix} k\right) = \left\| \frac{y_1}{y_2} \right\|^\lambda \quad (k \in K').$$

これらを用いて global zeta integral を

$$Z(\lambda; \phi, \psi) = \int_{Z(A)H(F) \backslash H(A)} \phi(J(h_1, h_2)) E(h_2, \lambda) \psi(h_1) \\ \times d(h_1 \times h_2)$$

と定義すると, これについて解析接続と関数等式が示される。

さらに

Basic Identity:  $\operatorname{Re}(\lambda) \gg 0$  のとき

$$Z(\lambda; \phi, \psi) = \xi_F(2\lambda) \prod_v \int_{F_v^\times} \int_{F_v^\times} W_v\left(\begin{pmatrix} y_1 y_2 & \\ & y_1 y_2^{-1} \end{pmatrix}\right) \\ \times W'_v\left(\begin{pmatrix} y_1 & \\ & 1 \end{pmatrix}\right) \|y_1 y_2\|^\lambda \|y_1 y_2\|^{-2} d^\times y_1 d^\times y_2 //$$

ここで  $W_v$  は  $\phi$  の,  $W'_v$  は  $\psi$  の Whittaker 関数である。

この local zeta integral を計算して, 結局次を得る:

定理 2.  $L(\lambda, \phi \times \psi, \text{spin} \times \text{standard})$  は全  $\lambda$  平面に解析接続されて関数等式をみたす。 //